三島保育所　病児・病後児保育室

くるみ保育室

げんき！！ すくすく通信

R6．3月号

少しずつ春の暖かい日差しが感じられるようになってきましたね。いよいよ今年度も残りわずかとなりました。インフルエンザや溶連菌、ウイルス性腸炎、アデノウイルス感染症など、ありとあらゆる感染症が季節を問わず流行し、思いがけず罹った方も多いと思います。手洗い・うがい、こまめな水分補給や肌の丁寧な保湿、十分な睡眠を心がけ、免疫力を高めて、来月からスタートする新年度に向けて、ウイルスに負けない身体を作りましょう！！

くるみ保育室の様子をお伝えします！！

＜　受け入れ　＞

お子様の症状、診療情報提供書、お薬、食事の内容を確認し、利用申請書などの書類を提出してもらいます。受け入れは玄関対応をさせていただいています。お医者様の指示により、隔離が必要なお子様も時にはおられますが、３部屋ありますので、症状により、別室にて保育や看護を行っております。安心してご利用ください。

＜　遊び　＞

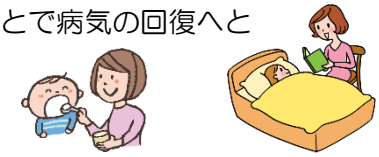
お子様の体調や年齢に合わせて、保育士や看護師と一緒に好きな遊びを楽みながら過ごします。病気中とはいえ、回復期のお子様も多く、好きな遊びを楽しみながら、ゆったりと過ごしておられますよ。季節の製作や手作りおもちゃ作りもしています。

＜　小児科医師の訪問　＞

連携機関の指導医による訪問があり、お子さん一人ひとりの病状の経過について相談し、助言をいただいています。気になることなどありましたら、受け入れ時にご相談ください。

＜　食事・睡眠・おやつ　＞

三島保育所と連携し、アレルギー食、離乳食、お粥・軟菜など利用されるお子様の体調に合わせて給食を提供しています。食べたい時に食べたい物を食べ、眠くなったら眠り、思う存分したい遊びを楽しむことで病気の回復へと繋がると考えられます。



保育室①『いちご』

保育室②『みかん』

保育室③『めろん』

小児科医師との勉強会を行いました！！

黒部市民病院の小児科部長の渡辺医師をお招きし、『小児のけいれん』についての勉強会を行いました。くるみ保育室スタッフや三島保育所の職員が参加し、小児のけいれんの種類や症状、起こった時の対応の仕方などを学びました。また、小さいお子さんが発熱時に起こしやすい、**熱性けいれん**の症状が出た場合の対応の仕方などを職員で確認し合いました。

今後も医療機関と連携し、勉強会を行って職員の専門知識を深め、安心・安全な保育看護に努めてまいりたいと思います。

発熱時によく聞く症状
伝えたいホームケア

熱性けいれんかも…と思ったら

- □ あわてない
  といってもあわてます！
- □ 応援を呼ぶ（近くにいたら）
  誰かに応援を頼みましょう！救急外来に電話してもらうなど、お願いするといいですね。
- □ 子どもをよく観察する（けいれんの持続時間は？）
  病院でけいれんの様子をよくきかれます。携帯電話などで動画に撮るのもいいと思います。
- □ 口の中には何も入れない
  吐いたり、窒息したりする原因になるのでやめましょう。
- □ 体を横に向ける（気道の確保）
  吐いた場合、吐物が口から出て窒息を防ぎます。頭を後ろに少しそらすことで、気道が確保できます。

すぐに医療機関が必要なのはこんな時！！

- 熱がないけいれん　・５分以上止まらないけいれん　・意識が１５分以上戻らない
- 短時間で繰り返すけいれん　・部分的なけいれん　…など

（緊急を要すると思ったら迷わず救急隊への通報をしましょう！）

＊くるみ保育室では連携機関である黒部市民病院の小児科の先生方に訪問していただき、利用するお子さんの病状や看護について相談し、助言をいただいています。何か気になることなどありましたら、受け入れ時にご相談ください。また、利用登録は年度ごとの登録となっています。R6 年度の登録も随時受け付けておりますので、よろしくお願いいたします。